

(8) 教材、教具等の工夫（開発教材等の説明）

ア 『成和ベラベライングリッシュ』

ねらい	自分の思いをずっと英語で言える。
生徒の活動内容	「ベラベラシート」(10文の英文・教科書に準拠する) 暗記してくる(予習) 「ベストパートナー」で練習をする。2人でやるから、面白い! くじを引き、対戦相手を決定する。相手が決まるとますます本気になる。 教員が提示した日本語に合う英文を素早く言う。勝敗が決まる!
準備	「ベラベラシート」、黒板用掲示物(ベストパートナーの名前カードなど)、くじ
実施時期	・ どの学年でも、年間のどの時期でも実施可能である。 ・ AETとの会話テストの前、定期テスト前などが有効である。
補充的活用	教科書の本文から、基本的な表現や会話を発展させるのに有効な表現を選び、ゲーム形式で楽しみながら行わせる。
発展的活用	ある状況を英語で説明し、それに対して生徒が英語で応答する。JTEとAETの会話を発展させるように行くと、より実践的なものになる。 賛成・反対や季節、ペットなどの話題で、A・Bに分かれて意見を言い合う。
実施上の留意点	・ 教員が楽しみながら行う。 ・ 第1回の「ベラベラシート」の英文は、簡単で、努力しなくても言えるくらいのレベルにする。「楽しい。」と感じさせることが先決! ・ 「ベストパートナー」で行う。勝っても負けても楽しい。全員参加の秘訣! ・ 生徒のつぶやきを聞き逃さず、生徒の要望を聞き入れる「遊び心」を持つ。
指導の実際と効果	・ 「ベストパートナー」で作戦が立てられることもあり、生徒から人気が高い。 ・ 速さを競うが詰まってしまうと言えなかったり、勝ち負けに意外性があり、楽しみながらできる。

【成和ベラベライングリッシュ】

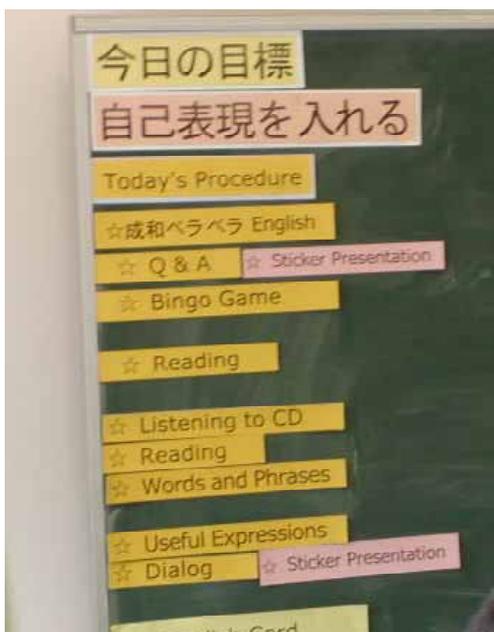
1「これは日本製のゲームです。」	This is a game made in Japan.
2「始めたばかりだよ。」	I just started.
3「関係ないわ。」	I don't care.
4「(スイッチを)切りなさい。」	Turn it off.
5「それはあなたのためにならない。」	It's not good for you.
6「言っていることがわからないよ。」	I don't know what you mean.
7「それは暴力的すぎます。」	It's too violent.
8「私はあなたにそれをしてほしくないの。」	I don't want you to play it.
9「あなたはどう思う?」	What do you think?
10「私はあなたのお母さんに賛成です。」	I agree with your mother.



「成和ベラベライングリッシュ」の授業風景

イ 『ビンゴゲーム』

ね ら い	単語力を定着させる。
生 徒 の 活 動 内 容	宿題プリントとして、単語練習をする。 ビンゴシートになっている。 教員が発音する単語を聞いてビンゴゲームを楽しむ。 ビンゴになった数だけ好みのスティッカーをもらい、「イングリッシュカード」に貼る。
準 備	宿題プリント、スティッカー、「イングリッシュカード」
実 施 時 期	3年間、毎時間欠かさず実施する。
補 充 的 活 用	新出単語ばかりではなく、教科書の本文の順番どおりに既習の単語を書かせる。それをつなぎ合わせると本文の日本語訳が自然と分かるように工夫する。 定期テスト前には、重要単語ばかりを書かせ、定着させる。
発 展 的 活 用	習熟度別指導の時には、熟語や英作文のビンゴシートにする。 教員の発音した単語を黒板には板書しない。
実 施 上 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生の入門期に、「イングリッシュカード」にビンゴシートをワークシートとして入れ、アルファベットビンゴや数字ビンゴを行い、楽しませる。最初は授業中にアルファベットを書かせるが、次第に宿題とする。 ・ 授業の始まりに宿題点検をする。あまりに宿題忘れが多い場合は、注意するとともに、その場で書かせる。できていないまま実施しない。 ・ 毎時間スティッカーをためる楽しみが膨らむような、スティッカーの準備や台紙の工夫をする。 ・ 学期末にはスティッカーの数を数えさせる。枚数で点数化することはしないが、宿題をしていない生徒の反省の機会ともなる。 ・ 基礎的な英語力を身に付けることの大切さを折に触れて話し、目的を意識させて取り組ませる。生徒は、基礎学力充実の取組（「チャレンジ満点大作戦」と呼び、全校体制で年間6回行う。）などの時に、英語力が向上していることを実感する。
指 導 の 実 際 と 効 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語授業の始まりとして、3年間毎時間行う。全員楽しんで取り組む。 ・ 毎時間の積み上げで、単語力が向上している。



毎時間の授業の流れ



生徒のファイル
宿題（ビンゴシート）



スティッカーが集まる楽しみ

ウ 『発言チップ』

ねらい	自ら英語で発言する勇気と態度を養う。
生徒の活動内容	教室に来たら、一人最低1個以上のチップを取る。自分の意欲・実績で決める。 50分授業のどの場面でも使用できる。＝挙手して英語で発言・質問する。 『イングリッシュカード』に使用した『発言チップ』の数を書き、自己評価する。
準備	おはじき
実施時期	3年生の2学期以降が適当である。
補充的活用	「均質学習集団」で Classroom English を使わせることを目標に行う。
発展的活用	習熟度別指導の「発展コース」での実施が有効である。
実施上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 最初は Classroom English から使わせるようにする。徐々に、授業の流れの中で自分の意見を発表できるところまで指導する。 有効な表現は、掲示物として教室に貼ったり、机に置いたりして、いつでも見ることができるようしておく。 20人程度の生徒が、50分の中で自らタイミングを計って意見を発表するのは、人数と学習内容、時間との兼ね合いで困難な場合もある。一人1回の発言が保証できるような授業展開を工夫する。
指導の実際と効果	<ul style="list-style-type: none"> チップを持っていて、それを使うことを目標に取り組むので、具体的でわかりやすい。I'm finished. Let me try. などが使いやすい。 最初は「ストレス」と感じる生徒も、何とか自分ができる発言から挑戦しようとする。 「少人数授業は先生目が行き届きやすく、質問などをすぐに聞いてもらえていいと思う。でも消極的だったり、みんなが自主的に発言できるわけではないので、『発言チップ』はいいアイデアだと思う。」(生徒のアンケートより)

エ 『チャットタイム』

ねらい	さまざまな話題について英語で自分の考えが発表でき、他者の意見を理解できる。
生徒の活動内容	順番にグループリーダーを決める。(4人グループが適当) 話したい話題をカードの中から選ぶ。(sports, food, music, petsなど) その話題についての自分の意見や考えを話す。(時間は1～3分程度) グループリーダーは話し合いの後、前に出てグループ内の話題の主なものを伝える。
準備	話題カード ワークシート 机を合わせる。
実施時期	3年生の2学期以降が適当である。
補充的活用	—————
発展的活用	習熟度別指導の「発展コース」での実施が有効である。
実施上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 最初は話しやすい簡単な話題を選ぶ。英語を自由に話すことに慣れるまでは、洋楽をかけて雰囲気や和らげたり、会話が停滞したのが分かるのを防いだりする。 全員に順番にグループリーダーをさせることにより、グループの団結を深める。 「QA-100」(「松香フォニックス研究所」発行)のような英語表現集を持たせ、常に活用できるように指導する。
指導の実際と効果	<ul style="list-style-type: none"> 一つの話題について、一人一人が意見を言うので、聞いていても楽しい。 後の報告があるので、活動を緊張して行える。 グループの構成メンバーにより、話題の広がりや差があり、楽しいと感じるところまでは到達しないグループもある。

オ 『Q & Aタイム』

ねらい	英語での質問内容を理解し、早く、正しく応答する。
生徒の活動内容	「QA-100」の例文を熟読する。授業の Warm-up、宿題等教室に来たら、質問カードのセットを選ぶ。 質問カードの中で、分からないところは、「QA-100」を見ておく。 1分間で10個の質問とその答えを、ベストパートナーで交互に言い合う。 評価表に一人一人記入する。1分以内に言い終えたらそのステップは合格とし、次のステップに進む。
準備	「QA-100」・質問カード(「松香フォニックス研究所発行」) 評価表
実施時期	2年生の1学期以降が適当である。
補充的活用	「QA-100」を見ながら、ペアで言い合う。
発展的活用	黒板に掲示してある質問カードの中から1枚選び、その質問を始まりとするオリジナルスキットを作らせて発表させる。 会話テストもこれらの質問の中から行う。
実施上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 「QA-100」の例文がずらすと音読できるまで全体のレベルを上げる。 「ベストパートナー」に限らず、縦・横・斜めペアを使い、多くの生徒とQ & Aをさせる。 評価表は評定につながる評価としてあらかじめ生徒に伝えておく。また、会話テストは、これらの質問の中から行うことも事前に生徒に説明する。
指導の実際と効果	<ul style="list-style-type: none"> 相手がある活動であり、また評価されるので、一生懸命行う。 時間競争の要素があるので、ゲームのように楽しんで行う。 学力・意欲両面でうまくいかないペアも出てくる。ペアを固定せずに行わせ、評価はペア評価ではなく、個人評価にする。

How To Do "QA-100"

1 「ベストパートナー」と協力して、「QA-100」を行います。
2 じゃんけんをして、先にどちらから質問をするかを決めます。
3 教卓まで「質問カード」を1セット取りに行きます。
「質問カード」は、Step 1～10までの10種類です。1セットは10枚組です。
最終目標は、Step 1～10までのすべての質問(=Q.1-100)が相手に質問できること
すべての質問に正しく答えられること

どのStepから始めてもよいですが、授業ごとに自分たちがまだやっていないStepを差がようにします。
「質問カード」はペアで1セットを使うのが基本です。国歌を覚えるたびに、他のペアとお互いに「質問カード」を譲り合って使う必要性も出てきますが、協力し合います。
4 1分間にどれだけ相手に質問できるか、のタイムレースです。
相手に「質問カード」の表を見せ、裏の日本語を見ながら英語で質問します。日本語を見て、質問の英語が思い浮かばなかったときは、裏の英語をヒントにします。
5 答える方は、Yes, No だけでなく、フルセンテンスで答えます。
6 相手の答えをしっかりと聞いてから、次の質問をします。
このようにして、1分間、「質問カード」を使って相手に質問し続けます。
1分間に10枚中何枚の「質問カード」を相手に質問できたかを、「QA-100 Check Sheet」に記録します。(自分が相手に質問できた枚数の数を記入します。)
7 1分間経ったら、質問する役と答える役とを交代して同じように進めます。



「Q & Aタイム」の口頭練習



オリジナルスキットの発表場面

QA-100 Check Sheet

No. 1

Class _____ No. _____ Name _____
Partner's Name _____

	Step 1 (Q. 1-10)	Step 2 (Q. 11-20)	Step 3 (Q. 21-30)	Step 4 (Q. 31-40)	Step 5 (Q. 41-50)
月日	/	/	/	/	/
Qの数	/10	/10	/10	/10	/10
	Step 6 (Q. 51-60)	Step 7 (Q. 61-70)	Step 8 (Q. 71-80)	Step 9 (Q. 81-90)	Step 10 (Q. 91-100)
月日	/	/	/	/	/
Qの数	/10	/10	/10	/10	/10

カ 『小先生活動』

ね ら い	人前で自信を持って英語を話す態度を育成する。
生 徒 の 活 動 内 容	既習のページを前に出て音読する。他の生徒は一斉にリピートする。 簡単な質問を全体に投げかけ、挙手した生徒を指名し、発表させる。
準 備	—————
実 施 時 期	1年生の1学期から毎時間行える。
補 充 的 活 用	音読テストや定期テスト前は指定ページを音読させる。
発 展 的 活 用	音読前にClassroom Englishで指示をし、音読後に簡単なQ & Aを行わせる。
実 施 上 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生の1学期から、継続して行くと効果的である。全員順番に小先生役をさせる。発音の上手な生徒や声の大きい生徒はほめて自信を付けさせる。 ・ どのページから読むかは、その生徒に決めさせる。既習のページであれば、どこでもよいことにする。 ・ 生徒が音読している間に、教員は全員の宿題点検をする。 ・ 実施時期や学習集団、活用の難易度により、一人ずつ座席順に行わせたり、ベストパートナーで行わせたり、ボランティアを募って行わせる場合などがある。
指 導 の 実 際 と 効 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人前での発表は緊張するが、1年生の1学期の、英文が簡単な時から継続して行うことにより、難易度が上がっても抵抗感なく活動できる。 ・ 小先生を行った生徒はその日の『イングリッシュカード』にそのことについての感想を書くことが多い。授業に緊張して臨み、上手に出来たときは自信を持つ。 ・ 英語の得意な生徒の活躍の場面となり、より自信を持つ。 ・ 教科書が読めない生徒が少なくなる。



小先生の音読風景

キ 『シール(ステッカー)発表』

ねらい	自己表現の場を設定し、自己表現することを喜びと感じる生徒を育成する。
生徒の活動内容	教員の指示した内容を練習し、教員のところに発表に来る。 教員の前で発表し、ステッカーをもらう。 『イングリッシュカード』にステッカーを貼る。
準備	ステッカー(発表内容により種類を変える。)
実施時期	英語授業の最初の時間から毎時間行う。
補充的活用	その日に習ったページを音読発表する。
発展的活用	Your Turn の会話を発表させる。 暗唱させる。 本文の内容を部分的に変え、自分の思いに近い発表をさせる。 オリジナルスキットを作り、発表させる。
実施上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間行う。教員は素早く点検が行えるように工夫する。 ・ 発表後には、「Very Good!」などの声かけを必ず行う。声かけが単調にならないように工夫する。単語間違いの場合は、発表を止めずに、発表後指導する。 ・ 待っている生徒には練習するように指示する。 ・ 発表の終わった生徒にはその日の宿題を渡し、始めさせる。 ・ ステッカーの数は学期毎に集計させ、意欲として評価している。 ・ 補充的活用と発展的活用では、渡すステッカーの種類を変えている。
指導の実際と効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステッカーの蓄積により、自分の努力が目に見えて分かるので人気があり、1時間の授業で何度も発表したがる。 ・ 毎時間のメインの活動(評価場面)としてなくてはならないものになっている。発表場面を与られているので、ただ一斉練習しているという退屈なことがなく、一生懸命に練習して習得しようとする生徒がほとんどである。 ・ 生徒は『シール(ステッカー)発表』で今日学習したことの自分の理解度を知り、教員は生徒の到達度を知る機会となる。結果により、次時の指導の参考にする。 ・ 生徒への指導を徹底させるために、発表の難易度を工夫したり、折に触れて授業規律についての話をする必要がある。



ペアの音読発表を教員がチェック

ク 『イングリッシュカード』

ね ら い	「学習ポートフォリオ」と位置付け、英語学習のさまざまなことを蓄積していくとともに、生徒の変容を早く知る。
生 徒 の 活 動 内 容	授業のまとめの時間に、「日付、宿題点検、今日の英文、振り返り」を記入する。 教員は点検後、職員室前の棚に学級毎に返却する。 各学級の英語係が授業日の朝取りに来て、配布する。
準 備	年間使用できる冊子形式のもの
実 施 時 期	最初の英語授業から毎時間使用する。
補 充 的 活 用	「今日の英文」に、その日に学習した重要文を書かせる。
発 展 的 活 用	「今日の英文」に自由英作文、指定英作文、JTEやAETへの質問などを指定して書かせる。 「振り返り」の文章で見本となるものは他の生徒に紹介し、その生徒から学ぶ。 「振り返り」の文章も英語で書かせる。
実 施 上 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習ポートフォリオとしての意味合いが強く、生徒は自分の頑張りが目に見える形で残っていくので大切に使う。 ・ 1年間使用の冊子形式なので、紛失することも少なく、長い目で英語学習を捉えることができる。 ・ 3月には来年度の『イングリッシュカード』を一人一人自分で作らせる。表紙などは生徒作品とし、複数準備して選ぶ楽しさも味わわせる。 ・ 過年度のものも来年度の冊子にはさむことを奨励し、学習が継続していることを実感させている。 ・ 冊子は、表紙、シール台紙、学習振り返りシート、自己表現シート、ビンゴシート、自己紹介シートなどをその学年に応じて配置している。
指 導 の 実 際 と 効 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒は大切に使用する。英語学習になくてはならないものである。 ・ 「振り返り」欄に書く内容で、学習に対する意識や生徒指導上の課題などさまざまなことがわかり、素早くその生徒の変容に対応できる。 ・ その生徒に応じて、補充的・発展的に一人一人直接指導ができるので、教員にとっても生徒にとっても有効である。 ・ 質問に答えたり、その日の間違いをていねいに指導したり、その生徒のよさをほめたりすることで、生徒自身の学習の足跡となる。